令和6年2月3日（土）陸奥新報（2面）

若者の健康教育に広がり

弘大COI サミット 取り組み最前線報告

健康を基軸としたウェルビーイング（幸福度の高い状態）な地域社会の在り方を考える「弘前大学COI－NEXT（ネクスト）ウェルビーイングイノベーションサミット2024」が2日、弘前市のアートホテル弘前シティで開かれた。会場とオンラインを含め約2200人が参加。地元自治体や企業が取り組みを報告したほか、研究者や主要参画企業の担当者らが社会実装戦略の最前線を報告した。

弘前大COIネクストは、健康を基軸とした経済発展モデルと全世代へのアプローチによって「ウェルビーイングな地域共創社会」の実現を目指す取り組み。全国から多くの企業が参画しているほか、20の共同研究講座が開設され、岩木健康増進プロジェクト健診で蓄積したビッグデータを生かしながら、弘前大を拠点にさまざまな研究が進められている。

ウェルビーイングな地域社会づくりについて意見を交わしたパネルディスカッション

サミットは弘前大、県、弘前市が主催。地元企業は明治安田生命保険相互会社は、QOL健診について「強力な啓発効果がある」とし、「QOL健診の導入によって社員の健康に対する意識が変わった」などと効果を紹介したほか、主要参画企業は社会実装の最前線について報告。未病に着目した疾病予防などの新サービス開発を目指す中路重之最高顧問ら15人が登壇。若い世代の関心を高める方策について「弘前市の課題を解決することを出発点にし、企業活動として取り組むことで幅広い世代にアプローチできる」「楽しみながらできることが大事」といった意見が出た。

アドバイザーでCOIネクスト共創の場形成推進会議委員の水野正明氏は「弘前から始まったものが全国、さらに世界へとつながっていく兆しが見えてきた。社会イノベーションを起こす次の世代は子どもたち」と強調した。

村下拠点長は「若者の健康教育は難しいが、広がりが出てきている。プロジェクトありきではなく、市民はもちろん、関わる企業にとってもしっかりメリットがあることが重要。持続化し、地域に根付いていくことが大事で、そのための一つの大きなプラットフォームが出来つつあり、さらに発展できる仕組みづくりを目指したい」と今後の展望を語った。（石岡由美子）